

研究課題名	歯周病が心房細動の病態、治療成績に及ぼす影響
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科 循環器内科学 教授 木原 康樹
研究期間	令和 元年 6 月 20 日(倫理委員会承認後) ~ 令和 6 年 3 月
対象者	平成21年1月から平成31年3月の間に、広島大学病院循環器内科で心房細動に対するカテーテルアブレーション治療を受け、「不整脈および高血圧疾患における遺伝子異常の検索（ヒM52）」の研究に参加された方。
意義・目的	心房細動の有病率は人口の1%を超え、わが国では高齢化に伴いさらなる有病率の増加が予測されます。心房細動は心原性脳塞栓症や心不全発症の原因となり、その早期診断やカテーテルアブレーション治療を含む治療成績の向上は健康寿命の増進、医療費の抑制に大きく寄与すると考えられます。一方で、歯周病は心血管系疾患、2型糖尿病や早期低体重児出産などの全身疾患の形成や病態に関わることが示唆されており、特に歯周病と心血管系疾患との関連については多くのエビデンスが集積されています。中でも主な歯周病原細菌 <i>Porphyromonas.gingivalis</i> (P.g.)の持続的菌性感染の全身疾患への影響が注目されており、私たちのグループも以前に、P.g.感染が非アルコール性脂肪肝炎患者における肝臓の線維化に関与することを報告しました。しかし、P.g.の持続感染が心房細動の病態やカテーテルアブレーション治療の治療成績に及ぼす影響は明らかになっていません。この研究では心房細動に対してカテーテルアブレーション治療を受けられた患者さんの血漿サンプルを用いてP.g.の抗体価を測定し、P.g.感染が心房細動の重症度や、カテーテルアブレーション治療の治療成績に与える影響を明らかにするとともに、心房細動重症化に関わるP.g.サブタイプを同定します。この研究が心房細動の予後予測に関わる新しい検査方法の開発や、P.g.やその産物を標的とした新規治療方法開発につながることを期待します。
方法	本研究は、「不整脈および高血圧疾患における遺伝子異常の検索」研究で採取された余剰血漿と診療録（カルテ）情報を調査して行います。 カルテから使用する内容は、①年齢、②性別、③身長・体重、④合併症（糖尿病、脂質異常症、高血圧症）、④生活歴（飲酒・喫煙）、⑤血液・生化学検査値、⑥心臓超音波検査検査値、⑦心房細動の重症度（発作性心房細動または持続性心房細動、罹患期間）、⑦カテーテルアブレーション中の所見、⑧カテーテルアブレーション後心房細動再発の有無などの項目についてカルテから情報を集め、血漿サンプル中の歯周病原細菌抗体価との関連性を解析します。 個人を特定可能な情報は解析に用いません。
共同研究機関	本研究は全て広島大学医系科学研究科および広島大学病院で行います。

試料・情報の管理責任者

広島大学医系科学研究科 循環器内科学 教授 木原 康樹

個人情報の保護について

データの収集と解析に際しては、個人情報に属するデータは扱わず、サンプル番号でコード化し、個人特定をできないようにして解析に使います。プライバシーの厳格な守秘に努めます。コード化と対応表保管は医系科学研究科で情報管理者が行います。本研究で収集したデータを広島大学外に持ち出すことはありません。

本研究の対象となる患者さんで、血漿とカルテから抽出した臨床事項を提供することを望まれない方は、遠慮なくお申し出ください。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8553 広島市南区霞1-2-3 TEL 082-257-5555 (内線 4629)

広島大学医系科学研究科 循環器内科学 中野 由紀子、 宮内 俊介 (研究担当者)

研究機関：広島大学